

# 大学

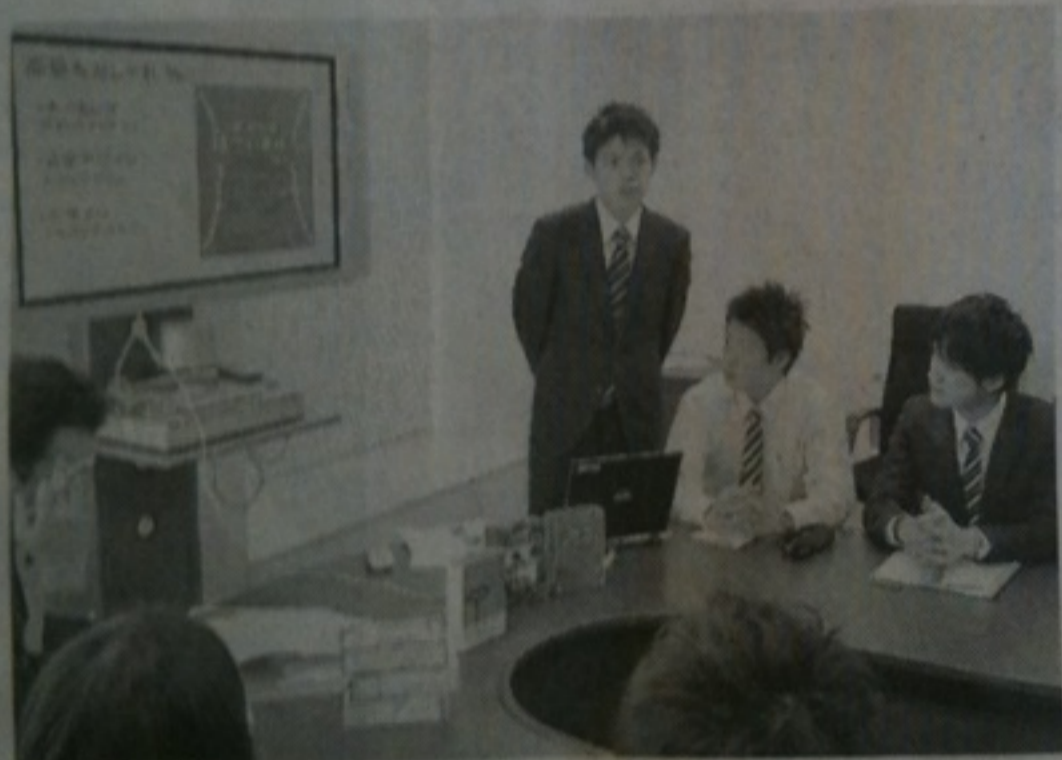
ただいま  
勉強中

東京都新宿区。ドラッグストアなどを展開するアインフーマシースで昨年12月、新商品のパッケージを決める会議があった。提案者は、東京経済大経営学部の本藤貴康准教授のゼミ生21人。4班に分かれ、パソコンでデザインした3、4種の案をそれぞれ発表した。

商品はアフリカの植物バオバ

## 商品名や包装 企業に提案

### 東京経済大経営学部 本藤ゼミ



パッケージ案を発表する学生たち  
＝東京都新宿区

ブを使ったゼリー状の健康食品。発表後は、企業の担当者らがパッケージを手に取りながら意見を交わし、一つの案を選んだ。企業と提携し、商品名などを提案する本藤ゼミの活動だ。

商品名にアイデアが採用された2年の国府田涼子さんは「初体験だったけどやりがいを感じる」。包装が選ばれた3年の関

戸美紀さんは「売り場で埋もれないような色合いを意識した」。企業側も「おもしろい案がたくさんあった」と歓迎した。

新商品は「果実の恵 ぼでいきゅんジュレ」。赤地にダイヤでくびれを表現したデザインの包装で、3月に店頭に並ぶ。ゼミ生たちは今後、売り場での販売促進も考える。(泗水康信)

本藤ゼミでは、これまでも企業と連携し、新商品の外箱や売り場づくりなどで、学生のアイデアを提案している。本藤准教授は「消費者の立場からモノを考えてほしい」。卒業後はメーカーや卸売会社に進む学生が多い。